

# IUFRO 国際研究集会

## 「第 2 回 FORCOM 2011 – 次世代のための追求と新しい挑戦」

松村 直人<sup>1</sup>・万木 豊<sup>1</sup>・沼本 晋也<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 三重大学大学院生物資源学研究科

### Report on the Second International Conference on FORCOM 2011 - Followup and new challenge for coming generations

Naoto MATSUMURA<sup>1\*</sup>, Yutaka YURUGI<sup>1</sup> and Shinya NUMAMOTO<sup>1</sup>

<sup>1</sup> Graduate School of Bioresources, Mie University, 1577 Kurimamachiya-cho, Tsu, Mie 514-8507, Japan

#### Abstract

The second IUFRO International Symposium on Sustainable Forest Resource Management -FORCOM 2011- was held September 25-30, 2011 at Mie University, Japan. The symposium was organized by the Japan Society of Forest Planning, in cooperation with Mie Prefecture and IUFRO Division IV. The purpose of the conference was to present state-of-the-art research results and techniques relating to the management and analysis of forest resources. The organizers wanted to bring together scientists from different regions, providing a platform for sharing information and experience.

**Key Words:** IUFRO 国際シンポジウム, 森林資源管理, 森林計画, 平倉演習林, 三重県

#### I. はじめに

平成 23 年 9 月 26～30 日の 5 日間に渡り、三重大学を主会場に、三重大学生物資源学部附属演習林・統計数理研究所リスク解析戦略研究センター共同主催、森林計画学会、IUFRO（国際森林研究機関連合）共催、三重県、トヨタ自動車バイオ緑化事業部後援のもと、「The Second International Conference on FORCOM - Followup and New Challenge for Coming Generations – FORCOM 2011 –」を開催した。本シンポジウムでは「森林資源管理の哲学と技術」をメインテーマとし、宇都宮大学で開催された FORCOM 2004（次世代のための森林の役割 – 森林資源管理の哲学と技術）に続き、今後の森林資源管理の研究展開を狙い、国内外の研究者と実務者、あるいは森林管理に関

心のある方々、さらに若手研究者の積極的参加を呼びかけ、研究成果発表と参加者間の意見交換の場を設定することを目的とした。また、本シンポジウムは平成 23 年度森林計画学会夏期セミナーも兼ねて実施した。

今回のシンポジウムでは、実行委員会を代表して、松村から「森林管理水準の世界標準での検証に関する話題」と田中和博京都府立大学教授（研究科長）による「森林 GIS を利用した次世代型森林資源管理システムについて」の 2 件の基調講演と森林計画、リモートセンシング、GIS、炭素・生物多様性関連、森林成長モデリング・計測関連など、森林資源管理に関わる幅広い研究内容について 12 件の口頭発表と 19 件のポスター発表があった。

シンポジウム参加者は計 63 名、そのうち海外

2012 年 12 月 7 日受理

<sup>1</sup> 〒514-8507 津市栗真町屋町 1577

\* For correspondence (e-mail: nma@bio.mie-u.ac.jp)

(カンボジア 1 名, 韓国 2 名, 中国 2 名) 計 5 名, 国内では一般 35 名, 学生・院生 23 名などであった。(図 1)

## II. 概 要

### 1. 全体プログラム

9 月 25 日 (日) の夜、津駅前でアイスブレイクが開宴し、本シンポジウムの開始となった。9 月 26 日 (月) 三重大学メディアホールにて、基調講演、一般発表、懇親会、27 日 (火) は三重大学附属平倉演習林の見学、現地検討会、28 日 (水) は再びメディアホールにて、基調講演、一般発表、ポスター発表、最終討論会、29 日 (木)、30 日 (金) は、トヨタ三重宮川山林 (大台町)、伊勢神宮宮域林 (伊勢市) へ、それぞれ希望者による日帰りの現地見学会を実施した。

### 2. 9 月 26 日プログラム

開催に当たって、吉岡 基三重大学大学院生物資源学研究科長と西村文男三重県環境森林部森林林業総括室長から歓迎の祝辞をいただき、その後、実行委員会を代表して、松村が基調講演「Philosophy and techniques for forest resource management - Follow up and new challenges for coming generations」を行い、地球規模での森林消失・劣化を背景に、森林管理水準の世界標準での検証、国レベルから地域、森林経営事業体レベルまでの森林管理認証システムの可能性などについて講演した。その後、一般講演 8 題を行い、三重大学生協第一食堂において懇親会を行った。

### 3. 9 月 27 日プログラム

会期中見学会として、三重大学附属平倉演習林での現地検討会を実施した。この演習林は、広域合併によって現在は津市美杉町となっているが、実際には奈良県境に接する雲出川流域の源流部、旧美杉村に位置している 450 ha ほどの森林である。現地では、沼本晋也准教授 (演習林次長) による演習林紹介の後、午後には紀伊半島で希少となったモミ・ツガなどの針葉樹天然林、ブナ、ケヤキ、ミズナラ、ヒメシャラなどの落葉広葉樹、その他常緑広葉樹の混交する天然生林、樹齢 200 年となる藤堂スギ人工林固定試験地、量水堰堤な

どの水文観測施設の見学も行った。

平倉演習林では、9 月の台風 12、15 号により施設・アクセス路、ライフラインに大被害が発生した直後で、演習林スタッフは、なんとか見学会に間に合わせて、仮復旧させたというのが実情であった。

### 4. 9 月 28 日プログラム

大会 3 日目は、再び三重大学メディアホールに会場を戻し、一般講演 4 題と、田中和博京都府立大学教授 (研究科長) による基調講演「A perspective on forest registration for the next generation in the era of GIS」、森林 GIS を利用した次世代型森林資源管理システムについての発表があった。その後、以下の 3 グループによるポスター発表が行われた。(図 2)

- 1) グループ A: 森林計画全般 6 題
  - 2) グループ B: リモートセンシング&GIS 8 題
  - 3) グループ C: 森林情報システム、e-forest 5 題
- その後、夕食を取りながら、クロージング討論を行った。

### 5. 9 月 29 日プログラム トヨタ三重宮川山林見学会

希望者による見学会初日は、トヨタが山林を購入したと話題になった大台町 (旧宮川村) 山林である。当日は、トヨタ自動車バイオ・緑化事業部緑化技術開発室から、福村郁夫室長、高木 剛主幹、森林保全グループマネージャー小野祐彦氏、諸戸林友川端康樹氏、森林再生システム研究員望月亜希子氏らに対応いただき、1,702 ha の山林概要の説明、現地見学を行った。もともと諸戸林産 (株) の所有時代にいろいろな取り組みがなされ、全国平均 17 m/ha を遙かに上回る 44 m/ha という高密度路網、これから収穫期を迎えるスギ、ヒノキ人工林、豊富な針広天然林などを所有している。今後、森林再生のモデルになるように、山林作業の効率化、共同研究などによる技術開発、「標準化」、「見える化」などを進めて行く予定とのことであった。

### 6. 9 月 30 日プログラム 伊勢神宮宮域林見学会

見学会 2 日目は、伊勢市山林の大部分を占める伊勢神宮の宮域林であった。この宮域林は、約



図1 集合写真

2000年前から「大御神の山」としてあがめられている。神宮司庁営林部のご案内で、20年ごとの「式年遷宮」に備え、御造管用材を生産する施業地の見学を行った。将来的に残す木を二重ペンキ、一重ペンキでマークし、その樹の肥大成長促進のため、間伐は周辺の隣接木の強度伐採（受光伐）を基本としている。200年での収穫を目指し、ha 当たり 100 本程度の収穫、平均胸高直径は大樹候補（二重ペンキ）で 100 cm、御造管用材候補（一重ペンキ）で 60 cm 以上を目標としている。

### Ⅲ. おわりに

多くの大学では夏休み最終週ということで、集中講義や実習の予定、また台風被害の対応、その他の学会開催など、日程的には窮屈な時期だったかもしれない。また、1週間という会期日程もフル参加は時期的に困難であったとも思う。それにも関わらず、多数の参加、特に大学院生など、多数の若手の参加があったことに感謝致します。また、幸い天候には恵まれ、多くの参加者にとって、さわやかな伊勢路を楽しんでいただけたのではないかと思います。

今回のシンポジウムを企画するに当たり、当初のアナウンスは早かったものの、Webの案内など、2次的な広報が遅れ、また東日本大震災の発生などがあり、関係各位には大変ご迷惑をおかけしました。

最後に実行委員会委員も含め、関係各位に厚くお礼申し上げます。共同主催していただいた統計

数理研究所リスク解析戦略研究センター吉本 敦氏、シンポジウムロゴをデザインしていただいた東京大学露木 聡氏、後援いただいた三重県環境森林部、トヨタ自動車バイオ緑化事業部、助成いただいた IUFRO-J、見学会に対応いただいたトヨタ三重宮川山林、神宮司庁営林部関係各位、実行委員の三重県林業研究所、三重大学附属演習林ならびに緑環境計画学研究室の各位に感謝する次第である。

今回のシンポジウム報告は、森林計画学会英文誌に要旨集<sup>2)</sup>ならびにその後の投稿論文集として、特集号で編集、発行される予定である。また、学生の感想や多数の写真を含めた詳細な報告は同学会和文誌<sup>1)</sup>に収録されている。今回のシンポジウムでの発表、討論、現地見学などが、参加各位の今後の研究の発展に貢献し、さらに今後の「森林資源管理」研究が加速されることを願っている。

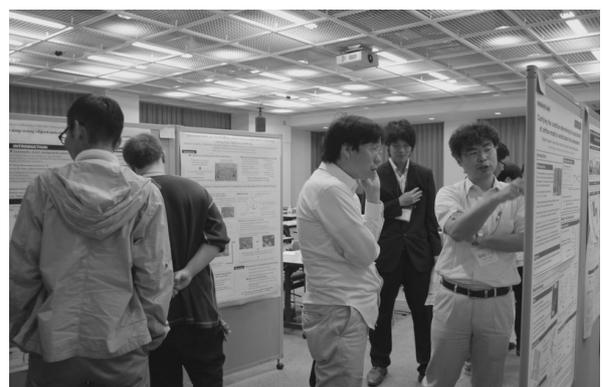


図2 ポスター発表風景

## 引用文献

- 1) 松村直人 (2011) IUFRO 国際研究集会「第2回 FORCOM 2011－次世代のための追求と新しい挑戦」実施報告. 森林計画誌. 45 (1) : 9-15.
- 2) Matsumura, N. (2012) Abstract proceedings of FORCOM 2011 - the Second International Conference on FORCOM - Followup and new challenge for coming generations. Journal of Forest Planning. 17 (2): 59-70.